

## 《第 49 号》「藤野電力」

小田嶋 電哲(藤野電力エネルギー戦略企画室室長)

神奈川県、今は相模原市に合併されてしまった山間部にかつて藤野という町がありました。古くから多様な移住者を受け入れる気風を持ち、「芸術の町」を謳う行政と共に今も住民による創造的な活動が盛んな地域です。

先の震災と原発事故の後、「自分たちで使うエネルギーは自分たちでつくろう」という呼びかけに応じて、旧藤野町民を中心に近隣の町村からも有志が集まり、2011 年 5 月藤野電力は誕生しました。

その年の夏、地域に根付く芸術祭「光まつり」を 100%自家発電で支えたことを皮切りに、藤野電力はその活動を広げてゆきます。秋には小さな太陽光発電システムを組み立てるワークショップをスタート、翌年には近隣の施主さん宅への施工や小さな手づくり発電所を建設するプロジェクトの開催回数が全国で 106 回、施工した物件は 10 数件、手づくり発電所も2機目がお披露目間近となっています。

これらの成果はすべて「やりたい人が、やりたいことを、やりたいたけやる」自由な活動の結果であると同時に「身の丈」「手仕事」「オフグリッド」「オープンソース」という4つの原則を共通して持っています。それは、「今、ここから、できることを楽しんでやろう」「すべてを人頼みにせず、自分の頭で考え、自分の手でつくり上げよう」「巨大なネットワークに接続せず、自律的に運用できるエネルギーをつくり出そう」「僕たちの活動が何かの役に立つならば、どうぞ自由に使ってください」というメッセージです。

過疎地と評されることもあるこの山間部に芽生えた活動は、少しずつ確実に成長しています。それはこの町だけ限りません。全国各地でこうした活動が目を出し始めています。やがて各地の活動は緩やかにつながりあいながら、さらに根を張り、幹を太らせ、葉を茂らせることでしょう。その先にいったいどんな未来が立ち現れてくるのか。今日もこつこつ楽しみながら、自分にできることを積み上げてゆきたいと思います。

以上